

たつんと とぴっく



身近なまちの話題や出来事をご紹介します



日本各地の都市を飛び回っている有人飛行船スヌーピー号が11月16日から26日まで市内に寄港し、19日には一般公開されました。会場となった中海ふれあい公園には多くの家族連れなどが来場。39m×13mの大きな船体をバックに記念写真を撮ったり、パイロットに質問したりしていました。境港市から家族4人で来た門脇完治くん（8歳）は「ゴンドラの中は機械がたくさんあった。風でゆらゆら揺れて楽しかった」とゴンドラ内部を見学した感想を話してくれました。

広瀬・伯太地域のいろいろな仕事を知ってもらおうと11月27日、学習訓練センターで「安来でおひろめ広瀬・伯太産業フェア」が開催されました。会場には、出展事業所の製品にちなんだ体験コーナーが用意。訪れた子どもたちはプロの指導で、マイ箸や木製小物入れ、豆腐づくりなどを楽しんでいました。

地元の仕事を体験したよ



▲子どもたちが丸太切りに挑戦。「引くときに力をいれて」とアドバイスを受けていました。

秋の収穫への感謝と喜び

伯太庁舎で秋恒例の農林業祭が11月20日に開催されました。地元の団体や生産者など43店が出店し、地元で採れた新鮮な野菜、花、果物、木材製品を販売。苗木やドジョウ汁の無料配布などがあり、各ブースには長い行列ができ、参加者は安来でとれた自然の恵みを堪能しました。

会場では梨の皮むき大会、花の寄せ植え教室、うどん打ち、シイタケの植菌などの体験イベントが数多く行われ、家族連れなどでにぎわいました。





▶ 8020表彰を受けた皆さん

食と健康について考えて

食や糖尿病予防を通して家族や自身の健康について考えてもらおうと、「食と歯のフェスティバル in やすぎ」と「ブルーライトアップイベント」が11月19日に合同開催されました。

会場となった安来中央交流センターでは、80歳で自分の歯が20本以上ある人を表彰する8020表彰や、健康相談コーナー、健康に配慮した学校給食試食などが催され、多くの市民が食べたり、体験したりして食の大切さを学びました。

安来地区栄養士会は砂糖の量を変えた飲料水を飲み比べて味覚体験をする企画を用意。来場者は甘みのある飲料水には多くの砂糖が混入されており、特に炭酸飲料500mlに一日の摂取量に相当する砂糖が入っていることに驚きの声を上げていました。

会場では健康総合企業タニタの健康セミナーも行われ、低カロリーでも栄養に配慮した満足感を得られる料理のコツについて、参加者は熱心に聴講していました。



落葉の古道を歩く

歴史ある広瀬清水街道を歩く「安来・清水寺古道ウオーク」が11月19日、450人の参加で行われました。当日は時おり霧雨の降るあいにくの天気。それでも山道に入ると鮮やかな紅葉が参加者を楽しませてくれました。また、所々に残る道しるべやお地蔵さんは、古の往来を想像させるのに十分な存在でした。

鳥取市から夫婦で参加した小林知代子さんは「広瀬清水街道は初めて歩きました。古道なので登り坂があり苦しかったです」と話しながらも、ゴールで振る舞われたそばをおいしそうに食べていました。



山城をまちづくりに活用

富田城整備事業の第一期工事が一段落し、山頂への登頂が可能になりました。これを記念した「月山再興・山頂部オープニングイベント」として講演会やウオーク大会が11月27日、広瀬中央交流センター等で開催されました。

講演会では「歴史を活かしたまちづくり」をテーマに地元代表を含む6人が討論。歴史アイドルとして各地の親善大使を務める小日向えりさんは「歴史のまちづくりに成功している地域には魂が感じられる。お城も風景に溶け込んでいる」と紹介し、「こちらも同じ雰囲気」と富田城を評価。また、地元のパネラーからは「地元の住民が歴史に興味を持ち、よく知ることが大事」と訴えていました。



警察官、車屋さん、 ケーキ屋さん、働く楽しさ実感

子どもたちに働く楽しさや仕事を知ってもらう職業体験イベント「やすぎエンジョイチャレンジ2016」が11月12日・13日、広瀬体育館周辺で開かれました。安来商工会議所青年部、安来市商工会青年部、安来青年会議所、安来青年経営者協議会の共同主催で、主に小中学生を対象に行われ、家族や友人と楽しむ姿が見られました。

職業体験には市内の金融機関や消防署、理容業、自動車整備業、和菓子やとうふ店、ケーブルテレビなど27社が協力。子どもたちは、壁のペンキを塗ったり、車の点検の仕方を学んだり、各ブース



▲プロの先生に指導してもらいながら壁紙貼りに挑戦。

を巡りながらさまざまな職業を体験しました。

クロス屋さんで壁紙張りに挑戦した広瀬小3年生の大草里菜さんは「壁紙と壁紙のつき合わせ作業が楽しかった。教えてもらったとおりにしたらつなぎ目もきれいにできた」と笑顔で話していました。

斐伊川流域における水源の森の保全を目的とした住民交流会が11月13日、伯太町東母里の森林であり、地元の住民ほか、松江市・出雲市など周辺自治体の住民約130人がサクラやクヌギの苗木1500本を植樹しました。

このイベントは水の恵みにつながる森林の大切さを伝えようと、斐伊川流域林業活性化センターと市、しまね東部森林組合などが企画。参加した住民らは急斜面にくわで穴を掘り、高さ60cm程の苗を丁寧に植えました。

荒廃林等を再生する事業は平成24年から始まり、現在までに15.8ヘクタールの植林を行っています。

森を守ろう！住民らが植樹



一流の音色に酔いしれる



宝くじ文化公演「外山雄三指揮 大阪交響楽団コンサート」が11月14日、安来市民体育館であり、約500人の観客はオーケストラが奏でる音色に酔いしれました。

コンサートはトランペットのファンファーレが印象的なスッペ作曲の喜歌劇「軽騎兵」序曲で開幕。陽気で活気に満ちた「トランペット吹きの休日」、軽快なテンポの「カルメン第1組曲」などクラシックファンなら誰でも馴染みのある曲目を中心に演奏されました。ラストは指揮者外山雄三氏が自作した「管弦楽のためのラプソディー」を披露。童謡などの親し

みのある曲が組曲にアレンジされ、懐かしくも壮大な音色に観客からは惜しみない拍手が送られました。

